



市政 あれこれ



柴又・浦川原交流30周年記念式典 両校の交流はこれからも、ずっと

太平洋戦争末期、当時の柴又国民学校から200人を超える児童が浦川原村に学童疎開をしたことを縁に始まった、葛飾区立柴又小学校と浦川原小学校との交流が今年で30年の節目を迎えました。

8月17日には、記念式典が行われ、葛飾区教育委員会の塩澤教育長をはじめ、多くの来賓が出席し、更なる交流を誓いました。(ページ上の写真)

村山市長は、「交流による出会いと絆が人々の温かい心を育ててきた。式典を契機に、互いの絆がますます深まることを願っている」とあいさつしました。

また、平成元年の両校による姉妹校締結時に教員として関わり、今回は校長として式典に出席した柴又小学校の木間校長は、「友情の絆を結んだ当時の思い出が浮かんでくる。ここには確かな人と人との交流がある。この交流を誇りに思う」と話しました。

式典では、村山市長から両校の校長に感謝状が贈られ、交流の歩みを振り返るスライド上映、柴又出身のソプラノ歌手、川原可奈さんによる記念唱歌などが行われました。

交通アクセスの向上に期待

8月8日、都市計画道路黒井藤野新田線の道路新設工事起工式が行われました。

この道路は、全長約5.3kmで、直江津港から県営南部産業団地などを經由し、国道18号・253号、北陸自動車へアクセスする環状道路です。これにより、国道8号の渋滞緩和や、円滑な物流の確保などにつながることを期待されます。

村山市長は、「県立武道館の開館などを踏まえ、より一層、交流とにぎわいを創出し、まちの総合力を活性化していきたい」と語りました。

今回の工事は国道18号から市道小猿屋安江線までの520mで、工期は平成34年度までの予定です。(新元号が未定のため平成と表記)



監査委員から審査意見書の手交

8月20日に、監査委員から村山市長へ平成29年度各会計決算審査意見書および財政の健全性に関する比率の審査意見書が手渡されました。

委員からは、決算は適正と認めるとの報告と併せて、今後も福祉に関する費用の増加などにより、依然として厳しい財政運営が求められるなどの意見がありました。

村山市長は、「昨年度は所得が増えたことで税収は増加したが、これからは施設や道路、橋の老朽化による補修工事なども増えてくる。引き続き、財政の健全化に向けて、職員と一緒に頑張っていきたい」と語りました。



東京海上日動火災保険株式会社と地域の活性化に関する包括連携協定を締結

8月21日、東京海上日動火災保険株式会社と地域の活性化に関する包括連携協定を結びました。

協定では、健康増進、防災・災害対策、まちづくり、農業の振興に関することなど6つの分野で連携していくことを確認しました。

今後、同社は市と連携しながら、企業への働き方改革の支援、海外展開への支援や、小学生への防災教育、全国各地にある営業所を通じた上越市の産品、メイド・イン上越のPRを行っています。

